



小さき群

救主降世2014年5月号 第95号

2014年度北海道教区宣教目標

『奉仕をする人は神がお与えになった力に依りて奉仕しなさい』

ペテロの手紙一 4章11節

教会HP <http://www.obihiro-seikokai.com>

アンニョンハセヨ

ジョシユア 司祭 李 香男

教区主教から帯広聖公会の牧師、及び付属幼稚園のチャプレンの職を拝命し、今月5日着任した、ジョシユア李香男(ヒャンナム)司祭です。連れ合いのテレサ美敬(ミキョン)と二人の娘マリア叡斌(イエビン)・マリア叡銀(イエウン)の4人家族です。

帯広に来る前は札幌聖ミカエル教会で6年間勤務していました。そして、その前は韓国聖公会の大田教区で、教区が運営する地域社会のための宣教センタの「分かち合いの家」と言うところで、家庭支援センターや青少年シェルター、アルコールや薬物依存症のホームレスの再活施設等の責任者として働いていました。

多い時には、牧会する教会を含め、8ヶ所の機関・施設の責任をもって教会の中の方々だけでなく、教会の外にいる多くの方々と関わりを持ちながら、神様は人を分け隔てなさらないことがよく分かりました。当然ながら、神様はキリストの体である教会に連なる神様の子ども達をととても愛し、そして喜ばれます。

しかし、それと同じくまだキリストの体である教会に連なっていない人々もととても愛しておられます。それで、彼らが一人も滅びないで皆救われることを切に願っておられます。

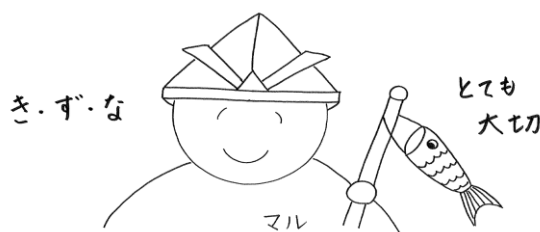
その神様が十勝に住んでいる多くの人々が一人も滅びないで皆救われるように、私たちの帯広聖公会をここに建ててくださったと私は信じます。帯広聖公会はこのような神様の願いを適うための器です。

聖書は教会をキリストの体であると言います。帯広聖公会はキリストの体です。だから、帯広聖公会の頭はイエス・キリストです。帯広聖公会の頭であるイエス様に従ってさえすれば、十勝の皆のために今もなお働いておられる神様が私たちの帯広聖公会を通して多くの者を救ってくださるでしょう。そのために共に頑張って行きま

しょう。

主に感謝。

愛を身に着けなさい。
愛はすべてを完成させるきずなです。



男子出生を祝ってかかげる鯉のぼり

羽州

初幟

浪型の
山脈およぐ

季節の風

22. 火

「火と薪はここにありますが、焼き尽くす献げ物にする小羊はどこにいるのですか。」

(創世記 22 章 7 節)

聖書には 2 種類の火がありあます。

1 つは優しさのしるしとしての「火」です。イスラエルの人々は、この火によって導かれました。

「昼は雲の柱、夜は火の柱をもって、わたしたちの先祖を導き、その進み行く道を照らされた。」

もう 1 つの「火」は焼き尽くす火であり、神の怒りのしるしです。

「わが怒りの火は燃え上がり、炎は陰府の底にまで及び、地とその実りを舐め尽くし、山々の基を焼き払う。」

世界のいろいろな民話の中に、人類がどうやって火を手に入れたかが示されています。ギリシャ神話ではエピメテウスが天の神ゼウスから人間や動物を創ることと、それらが生きてゆくのに必要な能力を与えることをまかせられ、いろいろな動物や人間をつくり、それぞれ必要なものを与えましたが、最後に人間の番になって、渡すものがなくなってしまった。そこでエピメテウスは兄のプロメテウスに相談すると、プロメテウスは天上から火を盗み出し、人間に与えました。怒った神は罰として、最初の女性パンドラに不幸と災厄の一杯詰まった箱を与え、パンドラが箱を開けたために、人類はいろいろな苦しみに見舞われることになったといひます。人類がプロメテウスによって火を得たことは、火の明るさと同時に、パンドラの箱に示される労苦、災害も与えられ、火のもつ二面性が、ここでも示されています。

(『聖書に見られる理科のことは』 文芸社刊より)

4月の教会委員会の主な報告・決議

1. 幼稚園への給食ボランティアを 6 月まで継続。
2. 教会行政について教会委員が分担担当。
3. 道東婦人の集い、道東 3 教会合同礼拝を 9 月 20 日から 21 日の予定で計画。

今月の教会歴

◎昇天日

イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。

(使徒言行録 1 : 7-10a)

主イエスは復活後 40 日にわたって使徒たちに神の国について話された。その後、主イエスが天に昇ったことを記念する移動祝日。復活日から 40 日目の木曜日。今年は 5 月 29 日(木)にあたる。

聖公会探訪 3

北海道のキリスト教史で聖公会が果たした役割には大きなものがあります。その中でもジョン・バチェラーは“アイヌの父”とも呼ばれるほどアイヌの人達への伝道に尽くしました。アイヌ語を学び、聖書をアイヌ語で訳し、祈祷書も詩編も出版しました。更には、各地にアイヌの子女のために 12カ所もの学校を設立しましたが、政府のアイヌの人達への同化政策により日本語教育を義務化されたことで、アイヌ語の教育が事実上不可能となり 1900年代の初頭には殆ど閉校されました。しかし、アイヌの伝道者を数多く育てました。その中には後にバチェラーの養女になった向井(バチェラー)八重子もいます。彼女は有珠にアイヌの豪族の娘に生まれましたが

11歳でバチェラーとも親交のあった父を亡くし、バチェラーを頼って東京の聖ヒルダ神学校(香蘭女学校)に進み、22歳でバチェラーの養女になりました。後に養父母と共に英国に行き、一信徒でありながらカンタベリー大主教から伝道師として任命を受け、帰国後、道内で伝道活動を展開しました。

バチェラー八重子はアイヌ語、日本語、英語の生活の中での自身の思いの一つの表現として短歌を絶えず詠んでいました。それがここでも出てきた金田一京助の勧めにより歌集『若きウタリに』として出版されました。

(天上に) (人間を造る鍛冶神)

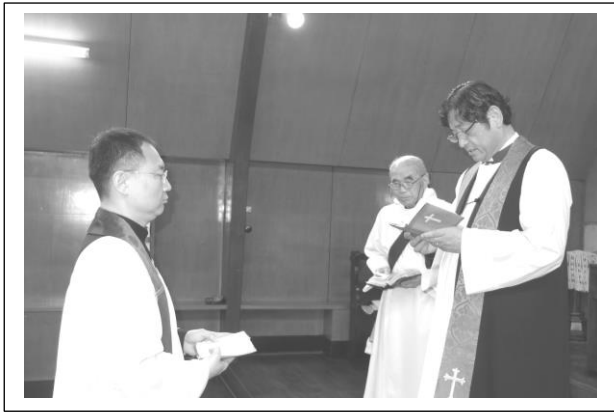
カントオッタ アイヌカラカンチ ありという
うちなほしてよ 痛めるウタリを

適度なる 野心家であれ ウタリの子等
欲の無い者 間抜けて見ゆる

ほんとうに 悲しみ泣ける 人ならで
キリスト様の 御事業は知らじ

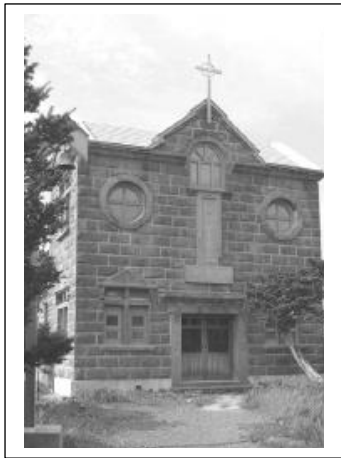
(英国で)
 ハイドパーク スパロウの群 嬉々として
 さへずる聲に 我もうれしき
 (同じく)
 あまりにも 物質文明 すすみある
 この大都市に 心おののく

第二次世界大戦によりバチエラー夫妻が帰国後、八重子は有珠の教会を僅かな信徒と共に守り、かつて夕張伝道で知り合った韓国人青年の招きで京都を訪れ、その地で急逝しました。
 伝道師で歌人でもあった八重子は、その作品からウタリを思い、ウタリの青年を叱咤する心が見えてくる気がします。



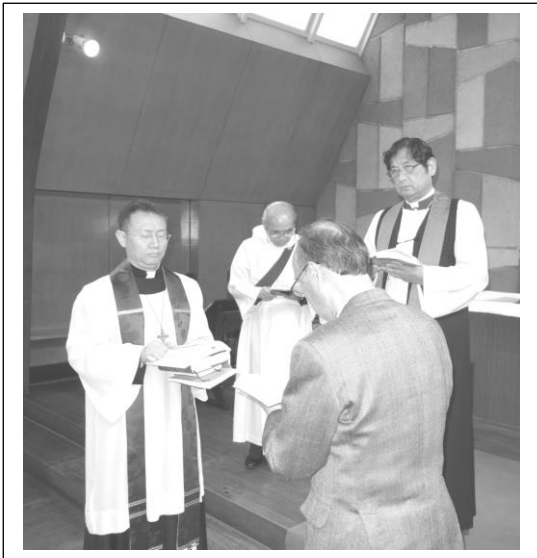
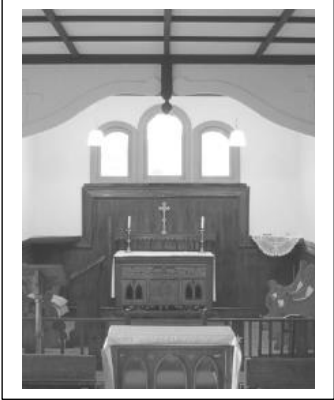
植松主教さまから帯広聖公会の牧師としての任命を受け

◎八重子が晩年を過ごした有珠聖公会

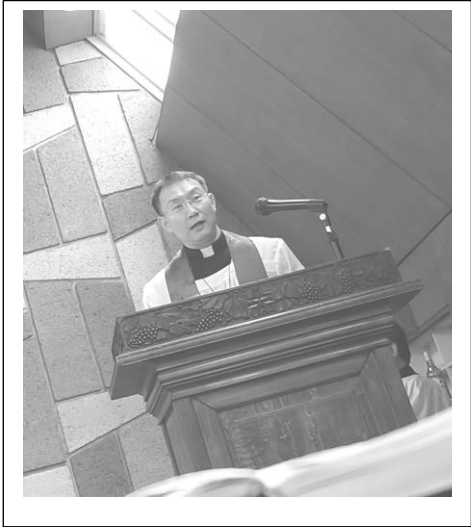


1937年に有珠山の噴石で石造りの礼拝堂に建て直し、「バチエラー夫妻記念堂」が出来ました。その地は「カムイ・タツコブ」(神の丘)と呼ばれた場所で小高い丘の上に立つ教会です。ちなみに、今金のインマヌエル教会はヘブライ語で「神とともにいます」と言い、戦前政府により「神丘」と地名を改めさせられました。

礼拝堂の内部は聖公会の伝統が強く感じられます。特にチャンセル内はかつてのままである事と、天井が格天井みたいで、何か時間を超越した思いがします。



信徒代表の飯塚さんから帯広聖公会のカギを受け



帯広聖公会の牧師としての初説教

☆有珠聖公会(バチエラー夫妻記念堂)
 所在
 伊達市向有珠町119
 ※札幌の大町司祭が管理牧師をされていますので、礼拝の有無はわかります。
 二階部分にバチエラー夫妻の展示室があります。

| | 4日 白 復活節第3主日 | 11日 白 復活節第4主日 | 18日 白 復活節第5主日 | 25日 白 復活節第6主日 |
|-------|-------------------------------|-------------------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 司式 | 李司祭 | 李司祭 | 李司祭 | 李司祭 |
| 説教 | 李司祭 | 李司祭 | 李司祭 | 李司祭 |
| 補式 | 寺本司祭 | 寺本司祭 | 寺本司祭 | 寺本司祭 |
| 信徒奉事者 | 山本雅之 | 大村倫子 | 尾関敏明 | 山本雅之 |
| 奏楽 | 寺本敦子 | 尾関真理・小貴耕喜 | 寺本敦子・尾関真理 | 大野耕一 |
| アッシャー | 小貴睦子 | 大野佳子 | 小貴耕喜 | 飯塚幸子 |
| オルター | 夏堀寿美子 | 飯塚幸子 | 小貴睦子 | 飯塚幸子 |
| 日曜当番 | 船津ともえ | 和田里美 | 大村倫子 | 高橋献一 |
| 旧約聖書 | 使徒言行録 2:14a, 36-47 小貴睦子 | 使徒言行録 6:1-9, 7:2a, 51-60 高橋献一 | 使徒言行録 17:1-15 山本雅之 | 使徒言行録 17:22-31 小貴耕喜 |
| 詩篇 | 116:12-19 | 23 | 66:1-8 | 148:7-14 |
| 使徒書 | ペトロの手紙Ⅰ 1:17-23 山本雅之 | ペトロの手紙Ⅰ 2:19-25 大村倫子 | ペトロの手紙Ⅰ 2:1-10 尾関敏明 | ペトロの手紙Ⅰ 3:8-18 山本雅之 |
| 福音書 | ルカの福音書 24:13-35 | ヨハネの福音書 10:1-10 | ヨハネの福音書 14:1-14 | ヨハネの福音書 15:1-8 |
| 入堂 | 1 5 9 | 3 3 4 | 3 5 8 | 1 9 1 |
| 福音 | 3 6 3 | 4 6 1 | 3 4 5 | 2 4 7 |
| 奉献 | 4 0 0 | 5 0 8 | 4 6 9 | 4 6 5 |
| 陪餐 | 3 6 2 | 4 4 6 | 5 4 9 | 2 6 9 |
| 退堂 | 3 2 3 | 1 6 9 | 4 7 0 | 2 7 4 |
| 備考 | 教会委員会 | 婦人会例会 | | 春季墓地礼拝 |

| 5月の逝去者 | | | 5月の誕生者 |
|----------|-----------|-----------|------------|
| 1 久保 輝邦 | 6 角田 節 | 22 茂木 健次郎 | 2 松本 康信 |
| 1 伊藤 十勝 | 10 小林 薫 | 22 本名 仁 | 5 小椋 誓司 |
| 2 本名 宗太郎 | 13 宮河 寿 | 27 林 波津女 | 7 大村 竜矢 |
| 2 杉山 百合子 | 13 大村 八重子 | 27 柴田 タツ | 8 三上ミルドレッド |
| 2 清水 勝代 | 15 小片 憲次 | 29 今福 数弘 | 18 小椋 愛純 |
| 2 今福 香織 | 15 藤原 富美子 | 30 小山 富次 | 24 船津 千恵子 |
| 3 青木 サダ | 15 須田 シナ | 30 宮田 稔彦 | 26 大村 誠一 |
| 3 本名 宗三郎 | 20 大村 競介 | 31 大井 鈴 | 26 寺本 美百合 |
| 3 三浦 浄子 | 20 本名 音吉 | | 27 大村 倫子 |
| 3 伏根 ユキ | 21 林 美智恵 | | 27 小泉 直子 |
| | | | 28 吉田 陽子 |

芋を海水で洗って食べたり、温泉に入るサルがいるようですが、流石に火を使うサルがいるとは聞いていません。人間は火を利用できる動物です。しかし、上記のように火がもつ文明は同時に“パンドラの箱”をも開けさせ、将来に亘って負の遺産を残してゆく選択もしてしまう訳ですね。

古代から化学的方法によって様々な物質からより完全な存在に錬成する試み(例えば錬金術)を今日では、原子物理学により理論的には不可能ではないと言われています。海水を燃料とする技術も成果を得たとの事、これも第二、第三の“パンドラの箱”にならない様にと願います。